

(選者 八木幹夫)

春に植えた苗が
秋には黄金色の
稲穂が笑る
刈り取り初日の稲束を
神棚と床の間の三宝に
お供えして
収穫の感謝をする
新米を炊く日は
暦のお日柄を見て炊き
炊き上がった新米を
神棚と仏前に供えて
家族皆で新米を頂く
遠い昔の記憶が今も
お米は尊い命守る神米

大阪府和泉市
須貝 富美 79

お米

朝の詩



令和7年(2025)日刊29647号

8|29[金]



産業経済新聞(サンケイ)
THE SANKEI SHIMBUN
発行所 ©産業経済新聞東京本社2025
〒100-8077東京都千代田区大手町1-7-2
東京(03)3231-7111 (大代表)

購読のお申し込み、
配達・集金などのお問い合わせ 0120-34-46
(全日7時~21時)
<https://reader.sankei.co.jp/reade>

紙面・記事へのご意見・ご感想 0570-0464
(平日10時~17時、土・日・祝日休
u-service@sankei.co.jp)

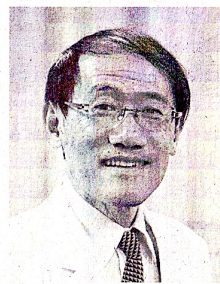
安心な地域医療をめざして



佐野厚生農業協同組合連合会

佐野厚生総合病院

〒327-8511
栃木県佐野市堀米町1728
TEL.0283-22-5222(代表)



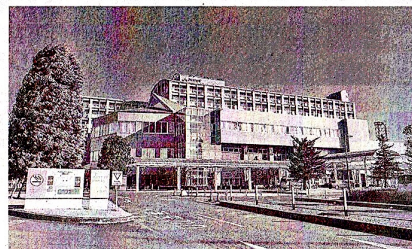
村上 円人 病院長

佐野厚生総合病院は、531床を備えた地域の中核病院です。佐野市で唯一の二次救急輪番病院として救急医療を支えており、感染症分野では第二種感染症指定医療機関に指定されています。特に2020年2月には、栃木県に先駆けてクルーズ船の新型コロナウイルス感染症患者を受け入れ、以後も感染収束に向けて病院を挙げて対応してまいりました。また、当院は周産期センターを有し、産婦人科・小児科ともに充実した医療体制で地域医療に貢献しております。2022年度には災害拠点病院に指定され、急性期病床の増床を実施。2024年度にはへき地医療拠点病院に指定されました。能登半島地震の際にはDMATを派遣するなど、地域医療構想に掲げられる6事業すべてに対応しています。さらに、2025年7月には休床中であつた病床を「回復期リハビリテーション病棟」として再開し、地域に不足していた病床機能の充実にも努めております。

佐野市は県内でも平均寿命が短い地域であり、脳卒中や心疾患など動脈硬化性疾患の発症が多く見られます。また、医師少数区域に指定されており、医療人材の不足が深刻な課題です。こうした中、当院は腎臓病・内分泌疾患に関しては

足利市、栃木市などの広域から患者を受け入れており、地域医療を支える重要な役割を果たしています。また、高齢化にともない整形外科疾患が地域で増加しております。今後は、心疾患・脳卒中・がん・糖尿病・精神疾患の「5疾病」に加え、整形外科のさらなる充実を目指しています。

現在、最大の課題は医療人材の確保です。当院ではDXの推進や手術支援ロボットなどのイノベーション導入を進めることで、医療スタッフのモチベーション向上と働きやすい環境整備に努めております。また、新人教育の充実と中堅層の再教育にも注力し、持続可能な医療チームの育成を推進しています。行政や医師会との連携を一層強化しながら、今後も当院の理念である『地域に寄り添い、信頼される病院』の実現に向けて進化を続けてまいります。



広告 企画・制作／
(株)プランニング
☎092-983-7771